

# 村井雄三

目立たずとも、遊技機の稼働になくはならないのがトランス（変圧器）。その中でも、高い技術力を誇るのが、日本捲線工業の遊技用トランスだ。今まで1件の事故もない安全性に信頼を寄せるホール企業は多く、今年度はさらに、価格を抑えた新製品のリリースも予定しているという。来年60周年を迎える同社の村井雄三社長に、これまでの歩みと展望を聞いた。

——来年、60周年を迎えます。

村井 ずいぶん長くやってきたというのが、正直なところですね。87歳になり同年代の友人たちは、すでに多くがリタイアして、悠々自適に過ごしていますが、この年になっても毎日、忙しく過ごしているのは、ありがたいことだと思います。

——日本捲線工業一筋ですか？

村井 いえいえ、もともとは兄が経営しており、私は大阪の大手鉄鋼メーカーで営業をしていました。その後、兄から、別会社の経営に専念するので後を引き継いでほしいといわれ、1965年に会社を引き受けました。取引先は、メーカーやホール企業など、パチンコ業界が主ですが、発電所向けの大型トランスも製造しています。

——当時からパチンコ業界とかかわりがあったの

ででしょうか？

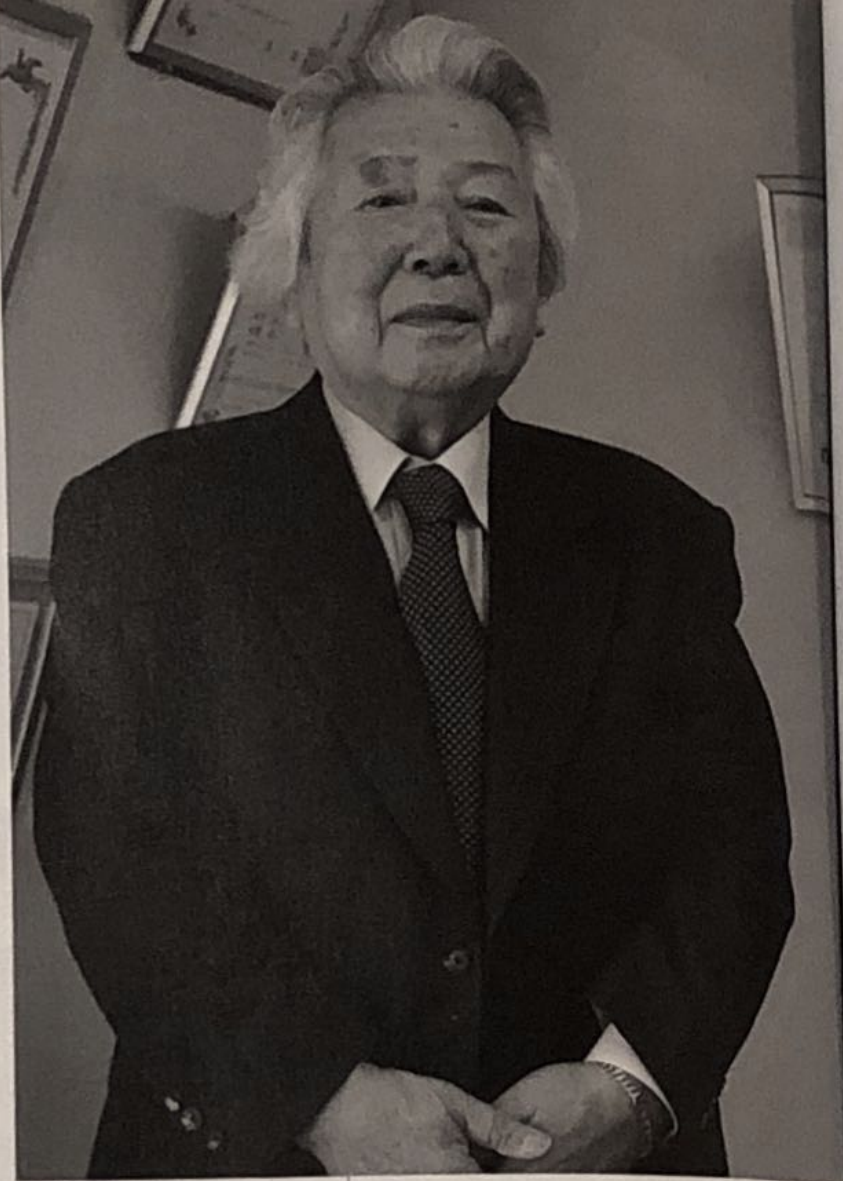
村井 私が引き受けたころは、ステレオやスピーカー、音響機器向けのトランスを主力としており、取引先も山水電気など、国内外の音響メーカーがほとんどでした。ただ、1980年代に入り、音響機器のデジタル化に加えて、メーカー工場の海外移転が進み、新たな取引先を模索する必要が出てきたわけです。

私たちが扱うトロイダルトランスは、一般的なトランスと比較して、高い技術力が必要になるものの、重量や容積を半分に抑えられるという特徴があります。他社と差別化ができ、小型で軽量というメリットを生かす分野はどこかと考えたとき、浮かんだのがパチンコ業界でした。

——なぜ、パチンコ業界が思い浮かんだのですか。



## ホールの稼働を島中で支える 遊技用トランスの第一人者



Yuzo Murai

1932年、北海道室蘭市生まれ。小樽医科大学を卒業後、鑄鉄管メーカー大手の栗本鉄工所に入社。10年間の営業生活を経て、実兄の要請を受け、1965年に日本橋線工業に入社。趣味は、夫婦での連れバチ。嘘をつかないことがモットー。

す。創業から60年、これまで当社のトランスが原因の事故は、1件もありません。

それはすこい。

村井 その分、価格は他社に比べて、1000〜2000円ほど、高めです。しかし、トランスは一度入れれば、20年くらいはそのままのホールも多い。その間、日々劣化し続け、火災などのトラブルが発生すれば、導入コストを抑えた以上の被害が出る可能性も。長く使うものだからこそ、安全第一で考えてほしいのです。

高い安全性のほかに？

村井 一部ホールさまからは、機械の挙動が安定するとの声が出ています。電力会社が送電する電圧は一定ではなく、電力使用量が増えれば電圧は上がり、減れば下がる。このブレが、遊技機の挙動を不安定にし、誤爆やハマリを誘発すると考える店長さまが、かなりいます。電圧を一定に保つ定電圧電源装置やトランスを介すことで、遊技機への負荷や遊技機同士の干渉をなくし、確率通りの稼働に近づける効果があるというのです。

実際、本当に稼働が安定するのか、相談されることも。証明するデータがないので、実感値として、こういうお声もありますと説明しています。最後に、業界に対するメッセージをお願いします。

村井 先ほども言いましたが、トランスは、一度設置したらそのままという所も多々あります。ですが、メーカーとしては、リスク回避のためにも、10年を過ぎたら交換してほしい。ホールは集客のため、さまざまな施策に取り組んでいます。安全な遊技環境の提供も、顧客サービスの一つではないでしょうか。当社のトロイダルトランスは、安全性が高い分、やや高額でしたが、ようやく、安全性を損なわずコストを下げる技術確立しました。これからは、安くて安全なトランスとして、コスト面でもホールさまに貢献していきたいと思えます。

村井 バチンコ島をイメージしてもらおうと分ると思います。あの、狭くてゴチャゴチャしたスペースに1台20kg近くあるトランスを設置するため、腰痛やぎっくり腰など、工事業者への負担が大きいく、メーカーも、従来品に代わるものを探していました。ただ、最初は、なかなか製品の良さを理解してもらえませんでした。

なぜでしょう？

村井 バチンコ業界では新参企業なので、製品に対する信用性が低く、「容量が半分で耐えられるはずがない。熱暴走するのでは」と営業先から言われたこともありました。そんな中で、最初に興味を持っていただいたのが、竹屋さま。

当時は、トランスのショートが原因の火災もあり、一部のメーカーは、トランスの安全性に対して、非常に危機感を持っていて、見本を見せると、

すぐに、「これはいい」と製品の安全性を理解いただき、導入に至りました。その後は、メーカーだけでなく、ホール企業にも採用いただいています。例えば、ダイナムさまには、これから全国に展開していくというタイミングで導入していただき、今でも系列全店に設置しています。

他社製品と安全面で、何が違うのですか？

村井 トランスの故障は、内部の鉄材に巻き付けである電線の被膜がはがれ、むき出しの電線に湿気や埃が付着して起こるショートが原因です。他社製品は、コストダウンのため、トランスを覆うケースにスリットを入れ、湿度を下げる設計が大半。これでは、湿気や埃が、空気と一緒に入ってしまいます。当社は、湿気や埃が入り込まないよう、トランス内部を充填剤で完全に密封。そのため、経年劣化で被膜がはがれても、ショートしないので